

**WEEKLY SIGNAL**

平成31年3月1日(金) 1464号  
上田八木短資株式会社

**来週の市場とレート予想**

	3/4(月)	3/5(火)	3/6(水)	3/7(木)	3/8(金)
無担保O/N			△0.086% ~ 0.001%		
銀行券	+ 700	+ 1,000	トシ	トシ	トシ
財政他	△ 54,100	+ 2,000	△ 17,000	+ 2,000	△ 6,000
資金需給	△ 53,400	+ 3,000	△ 17,000	+ 2,000	△ 6,000
主要要因	保険・税揚げ 国庫短期証券発行・償還(3M)		国債発行(10年) 交付税特会借入・償還		国債発行(30年) 交付税特会借入・償還
オペ期日	共通担保(全店) △ 700 CP等買入 △ 200 成長基盤 △ 5,100 国債補充供給 + 200		成長基盤 △ 100		
オペスタート	共通担保(全店) + 2,600 成長基盤 + 2,900				
(日本)	マネジャーベース(2月) 日銀、営業毎旬報告 (2月28日現在)		原田日銀審議委員、山梨県 金融経済懇談会で挨拶	景気動向指数(1月)	GDP(10~12月、改定値)
(海外)		米 リッチモンド連銀総裁、講演 米 新築住宅販売件数(12月) 米 ISM非製造業景況指数(2月) 米 財政収支(1月) 中 全国人民代表大会、開幕	米 NY連銀総裁、講演 米 ベーシュブック 米 ADP雇用統計(2月)	欧 ECB、政策金利発表・記者会見 欧 ユーロ圏GDP(10~12月、確定値) 米 新規失業保険申請件数(3月2日終了週)	米 雇用統計(2月) 米 住宅着工件数(1月)

**【インターバンク市場】**

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.010 ~ 0.050
SPOT 2M	△0.010 ~ 0.060
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.070
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

**<インターバンク>**

日銀当座預金残高は、週初384兆7,400億円から始まった。その後は財政等要因から385兆円台まで増加したものの、週末には国債発行を主因に減少し、381兆4,300億円となった。無担保コールON物は先週に引き続き、地銀業態を中心に資金調達ニーズが強い展開となった。同加重平均金利は週初△0.058%から始まり、その後は△0.054~△0.049%のレンジでの推移となった。ターム物は1W~2W物を中心に、主に△0.030~△0.020%の水準で出が見られた。日本銀行は28日、3月の長期国債等の買入れ方針を発表し、残存期間5年超10年以下の買入れ回数を5回から4回に減らした。1回当たりの買入れ額の上限は引き上げる形だが、実質的に月間の買入れ額を減らす姿勢を示した。来週の主な予定として、国内では日銀原田審議委員の山梨県金融懇談会での挨拶・記者会見(6日)や10~12月期のGDP改定値の発表(8日)などがある。海外では、ECBの政策金利発表・ドラギ総裁の記者会見(7日)や米雇用統計の発表(8日)などがある。

**【オープン市場】**

CP3M(a-1+)	△0.010 ~ 0.000
TDB 3M	△0.18 ~ △0.13
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

**<CP>**

今週の入札発行総額は約1兆9,100億円で、週間償還額(約2兆3,000億円)に対し償還超となった。発行市場は、月末日の約1兆5,000億円の償還に対し、新規発行は1兆1,200億円程度に止まったものの、その他金融や鉄鋼業態の大型案件が連日オファーされるなど活況なマーケットであった。3月末の市場残高は20兆6,830億円で、前年同月比では3兆5,486億円の増加となり、24か月連続の増加となった。発行レートは、期内物については0%を上回るレートが見られたが、期越物では0%割れの出合いも多かった。25日に、CP等買入オペが予定通り2,000億円オファーされ、按分レート△0.001%・平均落札レート0.005%と、前回(按分・平均落札レート共に△0.001%)に比べ、按分レートは横這い推移、平均落札レートは上昇した。来週の償還総額(3/2~3/8)は、9,600億円程度となっている。発行市場は、ショートターム物の期日償還が見込まれる為、やや閑散なマーケットが予想される。発行レートは、期内物で0%近辺の出合い、期越物は0%からマイナスレートでの出合いとなろう。5日に、CP等買入オペが3,500億円程度オファーされる予定となっている。

**<TDB>**

今週の国庫短期証券市場はGレボレートの上昇傾向が続いていることもあり、上値が重い展開となった。3月末越えの担保を確保する動きも一服し、1日入札の3M87回債は最高落札レート△0.1489%(前回債△0.2065%)、平均落札レート△0.1623%(同△0.2207%)も前回債から利回りは上昇した。セカンダリー市場は同3M物が△0.16%程度と概ね入札水準での出合となっている。来週は7日に6M、8日に3Mの入札が予定されている。

**<レポ>**

銘柄先決めGC取引は週初△0.07%~△0.08%から始まり、月末初の取引となる28日受渡しでは前場△0.06%近辺、後場には△0.04%台まで上昇した。以降も上昇基調が続き、短国3Mの発行日となる4日受渡しは△0.02%~△0.03%で多く取引された。SC取引では、カレント銘柄の10年353回債、5年138回債のbidが多く、共に△0.06%~△0.08%が出合いの中心であった。その他2年396・397回債、5年137回債、10年341・342・343・344・345・346・347・349・350・351・352回債、20年164・165・166・167回債、30年59・60・61回債、40年11回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。